

第2回

野々市なんでも百景コンテスト

3次評価
結果発表

野々市町内の歴史やユニークなスポットなどを撮影し、ポータルサイトへ投稿してもらった「第2回野々市なんでも百景コンテスト」。この3次評価(7月31日締切分)に67点の応募作品があり、9作品を優秀作として選出しました。

さて、昨年12月より開催してきたロングランコンテストもいよいよ9月30日(火)が最終締切です。最終評価では、新規の応募作品とともに、これまで応募された全作品が評価の対象となります。最優秀作として

「コンテスト大賞(デジタルカメラ1点)」「特別賞(折りたたみ自転車1点)」「部門大賞(ipodシャッフル2点)」を選出。また「魅力賞(4点)」「応援称(6点)」「努力賞(10点)」も過去3回に比べ表彰数が増えています。

最後の追い込みです。過去に撮影した写真でも構いませんし、普通のスチール写真でも構いません。みなさまの目から見た「野々市の魅力」のご応募をお待ちしています。



話題賞

「行幸の御門」 matsu

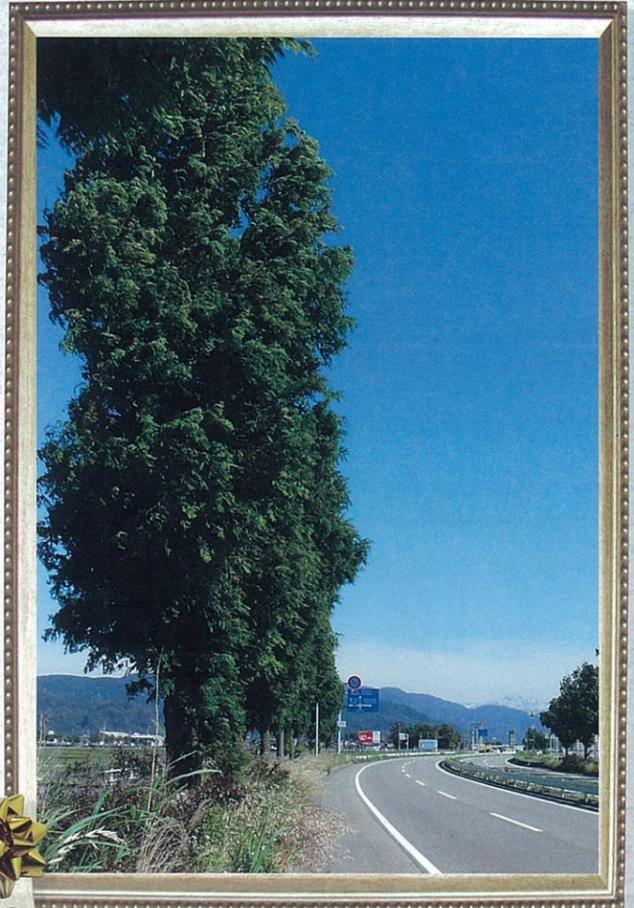
評 明治天皇が行幸の折、お立ち寄りになった御門と土塀で、本町通りの伝統を感じさせる佇まいである。見過ごして通り過ぎてしまいがちだが、手入れの行き届いている庭木の枝振りや合わせ、歴史を後世に伝える苦勞も偲ばれる一枚である。



話題賞

「実りを見守る鎮守様」 H.H

評 鎮守の社のシルエットと、水の張られた水田に映った影が面白い。植えられた苗の筋を、社の木々の間から顔を出している拝殿、本殿の屋根が見守っているようである。自然の恵みを守ってきた先人たちの息遣いも聞こえるようである。



魅力賞

「白山市との境界」 宮波正行

評 天を衝くメタセコイアの巨樹と青空が画面を二分する構成が印象的である。街路樹が切れる地点から野々市町で、歴然と違いを際立たせる。青空の下に延びる道路の奥に、かすかにだが白山が遠望できる。ホット懐かしさを覚える古里の風景である。

「ひだまり」 宮波正行
評 役場の中庭からあらみや公園を望んだ。三階部分から六角形の池を完全に捉えている。新しい百景のポイントを探し当てたお手柄の作品である。日溜りの水辺で遊ぶ子供たちと、建物の陰で涼をとるように憩う大人たち。動と静が鮮やかである。



話題賞



応援賞

「噴水」 カントク

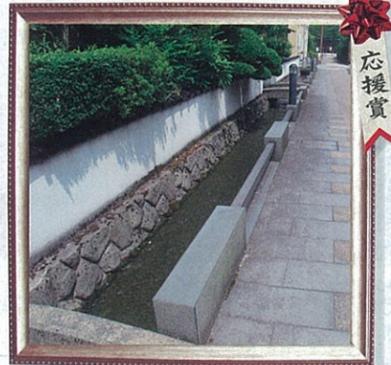
評 御経塚の泉の広場である。1時間ごとに5分程度、水を噴き上げるらしい。人間の体の大部分は水で出来ていると言うが、不思議と安らぎを覚えることがある。ちよっと見には、深い森の中の泉にも見える。そんな異空間に誘い込まれそうである。



応援賞

「おしゃれになった役場」とーちゃん

評 役場向かいの店舗の裏から撮ったものらしい。これまで庁舎そのものを被写体にした作品が多かった。が、シンボル塔を借景風にあしらっただけなのだが、その存在が感じられる。ランドマークで新風景を見事に切り取っている。



応援賞

「下林の用水と歩道」 猫1号

評 自然が豊かな野々市町にあっても、人工的に整備された風景も端正さがあって良い。用水のせせらぎと石畳。石組みの白壁の上から覗く緑。気ぜわしい日常を離れて、そぞろ歩きを楽しむスポットではないだろうか。



応援賞

「燃える富奥」 宮波正行

評 富奥の虫送りである。闇の中に燃え上がる炎に勢いを感じる。人の姿はシルエットだが、炎の中に浮かび上がる「藤平」の高張提灯。それを囲むように「粟田」「清金」「矢作」「三納」「末吉」「太平寺」の名が見て取れる。地区上げでの行事であることが分かる。



応援賞

「木々の間から…」 Nonoichi

評 御経塚にある縄文時代の遺跡である。木々の間から、復元されている竪穴住居を窺った。この時代、人々は広場を中心に、同心円を描くように住居を建てて生活を営んでいた。ぽっかりと日の当たる広場に今しも、林の中から縄文人が姿を現しそうである。

C5 計画 【C5計画実行委員会】
町情報文化振興財団 町連合町内会 町教育委員会
(株)えふえむ・エヌ・ワン 能登印刷(株) ののいちバス(株) カメリア・パルの会

C5計画とは
「しーごいかく」と呼ぶ。平成22年を目標とした野々市町5万人単独市制の実現に向けて、流入などによる人口の増加を促進し、さらに定住化意識を盛り上げるため、5つのメディアが中心となり、各種のイベントなどで「知り、再発見」した魅力ある野々市町の情報を積極的に発信します。

5つのメディア

BUS	コミュニティバスのっディ
EVENTS	まちづくりイベント
WEB	ののいちタウン情報局
FREE PAPER	全戸配布の情報紙
RADIO	ラジオ番組制作・放送

はばたけ!の市人

～野々市町から全国へ、世界へ～



の「市人」とは、15世紀末、京都から聖護院道興という高名な修験僧がこの地を訪れた際に、詠んだ歌に記された言葉です。加賀百万石の城下町・金沢が成立する100年も前に、野々市町には多くの人が住み、栄えたことが歌と日記に記されています。

5万人単独市の達成が間近な野々市町。この町のさまざまな分野で活躍する「の市人」を、FM-N1の野々市町広報番組「マイタウンのいち土曜版」(土曜朝11時～正午放送)で紹介しています。5月から7月にかけて放送した方々を紙面で再録します。



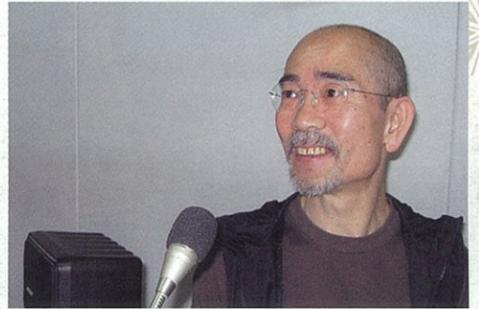
野々市明倫高校 ソフトボール部監督
平川 典生さん (野々市町下林3丁目)
部員・吉田 朋矢さん (3年生)
部員・朝井 康太さん (3年生)

野々市明倫高校ソフトボール部は、国体優勝に貢献した名門チーム。部を指導する平川典生監督も石川県の代表選手でした。3年生の吉田朋矢・朝井康太さんは共に中学校からソフトボールを始め、明倫ソフト部に入部。平川監督のもと、これまで全国大会に5回出場しました。



保護司(金沢保護観察所白山石川保護区)
福井 定雄さん
(野々市町本町4丁目、75歳)

友人から頼まれて、福井定雄さんは25年前から野々市町で保護司として活動して来ました。この功績が認められ、今年、藍綬褒章を受章。「社会復帰の支援をしていた人が再び罪を犯すと本当につらい」と話し、誠実な人柄がにじみ出ます。



NPO法人・石川県茅葺き文化研究会
専務理事 坂本 善昭さん
(野々市町粟田3丁目、64歳)

金沢市の中心部から野々市町粟田に移り住んで30年。タウン誌の編集長を18年間務め、現在は石川県茅葺き文化研究会など、町おこしプロデューサーとして活動。FM-N1「生活いち番シャトル便」パーソナリティ、金沢職人大学校専門員ほか多彩な活躍ぶりです。



野々市町美術文化協会
理事 中島 治人さん
(野々市町太平寺1丁目、60歳)

金沢工業大学職員の傍ら、アマチュア写真家として活躍。昨年、今年と二科展に連続入選しました。石川県現代美術展にも20年連続で入選。父親は、旧・富奥村村長、野々市町町長を務めた中島榮治さんです。FM-N1のラジオ・パーソナリティとしても活躍しています。



人形劇団「くるりんば」
西川 洋子さん
(金沢市押野1丁目)

人形劇団「くるりんば」の活動などを通して、20年ほど前から野々市町の民話の広報普及に努めています。以前は、野々市町立保育園の園長でした。この経験を生かして、子どもたちにも分かりやすい、迫力ある話し方が人気です。



野々市じょんから節保存会
加藤 静江さん
(野々市町本町2丁目)

約40年前に野々市町に嫁いだことをきっかけに、じょんから踊りの魅力に取りつかれました。「最初はそれほど感じなかったけど、こんなに楽しい踊りはない」と、「じょんから伝道師」として町内外の人たちに、踊りの魅力を伝えています。

みなみ設備工業は野々市町5万人市制を応援しています



私のチャレンジ宣言

「毎日の生活の中で1人、1日、1kgのCO₂排出量削減を目指そう」

エコキュートなら、これくらいCO₂を削減できます

エコキュートは、その省エネ性からCO₂の排出量を従来の燃焼式給湯機に比べて大幅に削減できます。

1人、1日に換算すると
CO₂ 約-607g。
なんと杉の木の約16本分。
1人、1日、1kgのCO₂
削減目標の約6割も
減らすことができます。



資料提供 北陸電力

地域のみなさまの大切なライフラインのサポートに貢献することを目指しております。誠意と創意を尽くし、快適で豊かな生活環境づくりに貢献したいと研鑽を重ねております。



水と空気のトータルライフをクリエイトする
みなみ設備工業株式会社
石川県知事許可(特-18)第11234号

野々市本部
〒921-8835 石川県野々市町上林5丁目33番地
TEL (076) 248-3730 FAX (076) 248-3356
E-mail y-m@minamisetsubi.co.jp



粟田保育園の扇風機や窓ガラスを清掃する金沢工大生

ボランティアで 地域と交流

金沢工大生400人が 保育園・公共施設で奉仕活動

金沢工業大学の学友会・地域活動推進委員会の企画で、体育・文化部会の新生が野々市町内の保育園や公共施設への奉仕活動を6月28日に行いました。

保育園に加え 公共施設も清掃

例年、町内の保育園を対象に奉仕活動を行っていますが、今年は参加学生が前年より100名余り上回ったため、急ぎよ、町と協議し、町内の公共施設8か所を加えて実施。普段、なかなか手の届かない箇所の清掃や窓ふき、保育園の遊具のペンキ塗り、駐車場のライン引きなどを実施。

保育園では園児とダンス

奉仕活動が終わった後、保育園では園児たちからお礼の遊戯披露や園児と学生とのフォークダンス、児童館では児童とドッチボールを楽しむなど、学外での奉仕活動を通じて、地域の子供たちとの交流がはかれました。



中央保育園の園児と楽しむフォークダンス

KITサマー・サイエンス・スクールで 地元の小・中学生に「科学の面白さ」を

小・中・高校生を対象に「科学の面白さ」や「ものづくりの楽しさ」を体験してもらう「KITサマー・サイエンス・スクール」が7月24、25日に開催されました。毎年、多くの参加希望がありますが、14回目になる今年は定員の3倍もの応募がありました。

120名の学生と 50名の教職員が協力

18の講座がある本スクールで、人

気の講座は夢考房ロボットプロジェクトのメンバーが指導する、自作プロペラカーのスピードやデザインなどを競う「爆走！プロペラカー」。

その他、感動デザイン工学研究所と協力し、香りの持つイメージと味覚との関係を考える講座など、503名の参加者が学内で様々な体験を楽しみました。



講座「宇宙への道」で太陽と惑星の大きさを調べる小学生たち

学生を元気にさせる大学。

K.I.T.

金沢工業大学

KIT(ケイアイティ)は金沢工業大学のBrand Nameです。
文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(経産省)「
文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(産学協働)「大学基準協会「大学基準協会」(認定校)
〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇が丘7-1
TEL (076) 248-1100
http://www.kanazawa-it.ac.jp/

金沢高専

バスケットボール部、
剣道部、水泳が

全国大会へ出場

第43回北陸地区高等専門学校体育大会が6月に開催され、金沢高専のバスケットボール部と男子剣道部、そして、水泳部の橋本君が平泳ぎで優勝し、北海道で開催の全国大会へ出場をしました。

北陸地区大会で優勝の剣道部